



平成24年11月
第16号

伊佐市 議会だより



曾木の滝ボランティアガイド

(撮影：敷根敏美 氏)

目次

- 補正予算概要 P 2～P 3
- 委員会報告・表紙によせて P 4～P 5
- 平成23年度決算報告 P 6～P 7
- 一般質問 P 8～P 14
- 請願・意見書・総括質疑 P 15～P 16
- あの質問どうなった?!・お知らせ P 17～P 18
- ひとくちコラム P 19
- 議会を傍聴して・編集後記 P 20

5億7,000万円 可決!!(予算総額156億円)

建設課

生活環境整備（側溝整備・道路改良）・路線整備

市道維持管理・浸水対策 ほか 1億2,400万円



- 対象路線：菱刈重留線・弥生郡山線・白木麓線・羽月駅前大島線・十曾線 ほか
- 公有財産購入（里町轟公園線）・菱刈湯之尾地区（旧河川敷地）土地利用基本計画作成

林務課

**林道災害復旧
1,100万円**

- 平成24年6月27日豪雨災害
野ミ田線・青木山ノ口線・堂免線
の測量と災害復旧

教委総務課

**中学校再編成準備
委員会費用の増額
75万円**



- 中学校再編成準備委員会構成と協議
実施予定が確定したことによる経費の増額
全7部会構成（7月から協議開始）

健康増進課

不活化ポリオワクチン接種の開始 990万円

- 0歳3カ月から7歳6カ月までの470人を想定
不活化ワクチン 注射4回 H24.9.1から
（生ワクチン経口2回 H24.8.31まで）



農政課

**農道整備を支援
1,100万円**

- 重留地区（花北・田中・市山3路線）
農村漁村活性化プロジェクト支援
交付金を利用



**農業生産近代化
施設整備を補助
800万円**

- 大型コンバイン導入
精米機・色彩選別機等導入
ごぼう掘り取り機導入 など

第3回定例会

一般会計補正予算

※主な補正内容・概算額で表示

地域振興課

子どもの森の設備整備 (十曾青少年旅行村内)

4,340万円

○歩道,排水路,駐車場の測量設計業務委託・整備工事・スロープ等の設置設計業務委託・設置工事。危機対応のために旅行村内の放送設備を整備



忠元公園の 駐車場を整備

500万円

○イベント時の駐車場不足を解消するため、駐車場整備の測量・設計を開始

環境対策課

不法投棄 廃棄物の回収

1,400万円

○市内300箇所の廃棄物を回収
(冷蔵庫・テレビ・
タイヤなど)



福祉事務所

災害時要援護者 管理台帳を整備

500万円

○災害時における要援護者支援のため
防災マップを兼ねた管理台帳を整備
障がい者や65歳以上の高齢者の4,000人
の情報を整備



総務課

高齢者による 事故防止のために

150万円

○65歳以上の自動車運転免許証返納者に
1人あたりタクシーチケットなど3万円
分(平成24年10月1日返納者から)



交通安全施設 整備の追加

950万円

○市内29箇所のガードレール・
区画線・ロードミラー等を追加
整備

各委員会報告

主な質疑と内容

50人くらいの返納者があると見ている。返納者には3万円分のタクシーチケット、または商品券を支給する。

以降は国の交付金は、今までより6億円程度少なくなる想定される。

金500万円の事業である。災害時に援護を必要とする人の管理台帳を、データベース化、電算処理し、地図上に落とす。これをすべての関係機関に公開し、支援情報を共有し、防災マップの機能も付いているのでスピード化も図れるものである。

総務文教委員会

教育委員会総務課

曾木小学校多目的トイレ

Q 建物の形状と位置は。
A 伊佐市出身で東京在住の方の設計で日本風の家と表の間をイメージした2棟作りである。体育館が災害時の避難場所となっているため、そこに近い場所に造ることになった。洋式トイレや車椅子利用、ベビーシートも設けられる。



学校教育課

中学校武道必修化で柔道畳72枚購入

Q 設置中学校は。また再編後はどうなるのか。
A 大口中、山野中で時間をずらして利用する。移動は業者でもらうようう内諾をもらっている。

Q 大口南中は現在剣道であるが、27年の再編を見込み、来年柔道に切り替えたい考えで話を進めている。
A 警察の情報では指定暴力団3団体組員複数人の存在を確認している。

「伊佐市暴力団排除条例の制定について」

サイレンも故障していた。今回の修理は新設に近いものとなる。

Q 伊佐市の現状は。
A 警察の情報では指定暴力団3団体組員複数人の存在を確認している。

総務課

大山口の雨量観測所修繕

Q どの程度の修繕か。
A 合併後、保守点検をしてこなかった。雨量データの通信や規定雨量時の

支援内容は。来年3月までの半年で

高齢者運転免許証自主返納者に支援

支援内容は。来年3月までの半年で



財政課

2億6527万2000円を基金積立

Q 基金総額と今後の市財政の見通しは。
A 今回の積み立てで24年度末6億777万5000円（内財政調整基金53億274万9000円）と予定している。合併による国の財政的な特例措置が終わる平成33年

以降は国の交付金は、今までより6億円程度少なくなる想定される。

建設課

「西方辺地に係る総合整備計画の一部変更について」

Q 市道田代線事業費増額の内容と完成年度は。
A 県の指示により、橋梁の右岸左岸取り付け、用水路の充実等で工事費増となった。事業は25年度完成の予定だったが、新たな事業を設けて平成27年度完成となる。

環境政策課

不法投棄廃棄物回収に1400万円

環境福祉委員会

福祉事務所

災害時の要援護者支援を強化

Q 災害時要援護者管理システムの内容はどのようなものか。
A 地域支えあい体制づくり事業で、すべて県補助

か。山間部の林道沿いや旧道の谷間に300箇所ぐ



Q どのような場所にどれくらい捨てられているのか。
A 山間部の林道沿いや旧道の谷間に300箇所ぐ

か。

健康増進課

らい確認できている。市内をいくつかのブロックに分けて、複数の収集運搬業者に委託したいと考えている。回収を行なった場所には、看板・ロープを設置し、市民への啓発にも努めたい。

不活化ポリオワクチンの予防接種開始

Q 従来の生ポリオワクチンから、より安全性が高いものとして不活化ポリオワクチンの予防接種が始まるが対象者、接種期間等はどうのように把握しているのか。

A 対象者は、生後3カ月以上、90月未満の者で、皮下接種である。20日以上の間隔をあけて、1期の接種を3回行う。この1期の接種に、追加接種1回を行い、合計4回の接種となる。しかし、追加接種については、まだ有効性や安全性が確立していないというところで、現時点では定

期接種に含まれていない。



経済建設委員会

建設課

河川総務費の業務委託費600万は

Q 湯之尾の地盤沈下付近の計画だが、橋も含め整備されるのか。

A 旧菱刈町時代に計画があり、名称が、21ドリムプラン菱刈という中で、整備委託されているが、一部に地盤沈下するところがあり断念していた。再度地元からの要望等があり、川内川河川事務所菱刈出張所と協議、7ヘクタールを計画し、

現在の橋梁は盛土工法による道路整備を考えている。

地域振興課

バス待合所建築工事費に316万8000円

Q 南国交通の事務所ビルが取り壊され、バスの乗り降りができなくなるが。

A 交番の後ろに、10月から、バス停としての待合所を建築する。また、高津原停留所を雨よけのできるものとする建築費である。

農政課

伊佐米の販売推進状況

Q 伊佐米のパンフレット20万円と、販売状況は。

A 神奈川県取引店に、23年度産の米を75トン納めている。北九州市にある卸屋は、24年度から取引を始めるとのこと。パンフレットは、ふるさと会、東京、関東圏でのイベントで配りPRをしている。そのかきもあり各直売所への注文が多くなっている。

表紙によせて



今年5月、曾木の滝の展望所が新しく建設されたのを機に、15人の伊佐市観光ボランティア（伊佐の風）が活動を開始しました。

いずれも歴史に興味を持ち、我が町伊佐市の観光PRに役立ちたいという思いから、毎月定例会（勉強会）を開き、月の第2、第4土日は定例ガイドの日として、誰かが常駐し、お客様の要望に応えるようにしています。また、事前予約のあった日時には、対応可能なガイドを招集して応えるようにしています。

現在のところ、曾木の滝周辺の3コース（①曾木第2発電所遺構コース、②分水路・新曾木大橋コース、③曾木の滝公園コース）を中心にガイドしております。

県外や市外の方々は当然ですが、何十回も曾木の滝を訪れているという伊佐市内の方でも、ガイドを受けた後は、「こんな所があったなんて知らなかった！」と感嘆と喜びの言葉を口にされます。曾木の滝周辺には新しい発見がまだまだいっぱいあります。

（曾木の滝観光ボランティアガイド

古里 秀人）



稲刈りの風景

平成 23 年度 決算審査特別委員会報告

審査内容

決算審査に当たっては、平成23年度一般会計、特別会計ともに歳入歳出決算書、主要な施策の成果説明書に基づき、一般会計5日間、特別会計2日間にわたり各課ごとに説明を求め審査を行った。

現地における調査対象は6箇所にわたり、担当課より説明を受け現状を審査した。

現地調査対象箇所

○建設課

・新川新拓線（繰越明許費）

・公共土木施設災害復旧工事災害箇所
（河川災害 川間川）

○地域振興課

・曾木の滝観光拠点施設運営事業

○文化スポーツ課

・総合体育館耐震補強工事

○福祉事務所

・地域子育てサポート拠点整備事業
・十曾子どもの森・育ち合
い事業

○平成 23 年度一般会計・特別会計決算状況

（単位：千円）

区 分 会 計	歳 入 (A)	歳 出 (B)	差引額 (C)	翌年度へ繰越 すべき財源 (D)	実質収支 (C)-(D)=(E)	
一 般 会 計	16,204,624	15,510,922	693,702	167,027	526,675	
特 別 会 計	国民健康保険事業	4,385,075	4,362,901	22,174	0	22,174
	介護保険事業	2,902,520	2,895,736	6,784	0	6,784
	介護サービス事業	20,035	14,117	5,918	0	5,918
	後期高齢者医療	381,251	380,701	550	0	550
	簡易水道事業	854	726	128	0	128
	農業集落排水事業	188,814	188,470	344	0	344
	小 計	7,878,549	7,842,651	35,898	0	35,898
合 計	24,083,173	23,353,573	729,600	167,027	562,573	



福祉事務所：地域子育てサポート拠点事業
トータルサポートセンター

○健全化判断比率

（単位：％）

実質赤字 比 率	連結実質 赤字比率	実質公債費 比 率	将来負担 比 率
- (13.35)	- (18.35)	13.8 (25.0)	32.9 (350.0)

※ 実質赤字額は又は連結実質赤字額が無い場合比率は「-」と記載

※ カッコ内は、本市の早期健全化基準値である。

審査を通じての 指摘事項

（主な事項抜粋）

環境政策課

ごみ減量化推進事業で生ゴミ処理機購入補助金の制度利用を促進するため啓発を強化すべきである。

農業委員会

高齢化で田・畑の耕作放棄地が増加し、鳥獣被害が出てきている。農政課・林務課との連携を取り合う施策の検討をすべきである。

福祉事務所

障がい者の社会参画と自立の推進にいろいろな事業があるが、相談の施設の場所が違うので相談毎の場所の施設紹介のPR・案内を望む。

長寿支援課

老人クラブへの加入率は40.8%と他市町より高いが、加入促進の施策を検討すべきである。

○主要な財政指標

(単位：千円 %)

区分	平成23年度	平成22年度	類似団体
財政力指数 (3ヶ年平均) ※1	0.34	0.36	0.45
標準財政規模	9,915,183	10,117,646	11,488,980
基準財政収入額	2,716,958	2,604,711	3,467,456
基準財政需要額	7,958,763	8,119,474	8,656,208
経常一般財源収入額	9,502,044	9,672,124	10,758,318
実質収支比率 ※2	5.3	4.8	5.8
経常収支比率 ※3	85.8	83.5	86.1
公債費負担比率 ※4	15.1	15.3	17.9
実質公債費比率 ※5	13.8	14.6	14.7
地方税 徴収率	現年課税分	98.1	98.1
	滞納繰越分	15.1	17.4
	合計	91.2	91.0
地方債残高 (特定資金を除く)	13,904,278	14,531,205	16,903,138
債務負担行為額	1,673,053	1,909,940	1,235,294

※1 【財政力指数】

基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た値の3年間の平均値。高いほど財源に余裕があるとされる。(1以上であれば財政力が極めて強い)

※2 【実質収支比率】

標準財政規模に対する実施収支額の割合概ね3%~5%が望ましいとされる

※3 【経常収支比率】

経常的な経費に経常的な一般財源をどれだけ充当したかを示す。70%~80%が標準とされる。

※4 【公債費負担比率】

公債費に充当された一般財源の一般財源総額に対する割合。比率が高いほど財政構造が硬直化。

※5 【実質公債費比率】

市税・普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される財源のうち、公債費や公営企業債に対する繰出金など公債費に準ずるものを含めた公債費相当額に充てられた額の占める割合の3ヶ年平均値。18%未満が望ましい。

○平成23年度水道事業会計決算状況

(単位：円)

区分	収入	支出
収益的	387,192,797	331,045,518
資本的	14,635,000	159,562,667

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 144,927,667 円は、減債積立金 62,000,000 円と当年度消費税資本的収支調整額 2,331,069 円及び過年度分損益勘定留保資金 150,848,903 円のうち 80,596,598 円で補てんされている。

健康増進課
女性特有のガン、各種がん検診に対する住民の関心を高め、検診率向上の努力を望む。

総務課
消防団の再編成・報酬問題について早急な解決を望む。

税務課
固定資産税・軽自動車税の滞納分の納税率向上を図るために努力すべきである。

建設課
住宅新築資金の回収で、債務者より良い信頼関係を心がけ、回収に努力すべきである。

市営住宅改善事業の長寿命化計画の中で、高齢化に伴うエレベーター設置も検討すべきである。

教育委員会総務課
需用費での不用額については、状況を見て各学校と協議を行なうべきである。小学校の太陽光発電施設で発電及び効果の出ないものは、修理・見積りの結果をみて、処分等を検討すべきである。

社会教育課・図書館
郷土芸能の継承育成で指導者不足に配慮し、指導者育成費の創設を検討できないか。

文化スポーツ課
自主文化事業開催で芸術鑑賞する機会が少なかったため、機会を増やし、芸術文化の底上げを図るべきである。



地域振興課：曾木の滝環境拠点施設運営事業

一般会計決算審査
特別委員会委員

委員長 柿木原 榮一
副委員長 松元 正
委員 左近充 論
畑中 香子
岩元 克頼
鶴田 公紀
森山 善友
丸田 和時
諏訪 信一

市民生活の 向上をめざし 一般質問 13人



生活相談窓口の 一元化は

柿木原 栄 一 議員

問 生活面の悩み等の相談事に対して、一元化した窓口で解決できる（仮称）伊佐市パーソナルサポート・サービスモデル事業の構築はできないか。

答 現在、伊佐市独自で悩み相談等のネットワークで動いているので、作らない。

問 多重債務、借金での自殺等の相談に対応する伊佐市相談総合推進委員会（仮称）を設置してどうか。

答 現在のところ、考えていない。

教育委員は教育問題に
対応可能か

問 全国の小中学校でいじめを受けた生徒が自殺した問題が多数起きている。伊佐市教育委員の姿が見えないが、市教育委員は対応は大丈夫か。平成24年度伊佐市人権同和教育研修会で指定の座席に見えなかったが、情報の共有化はできているのか。各新聞紙上で2011年度のいじめの認知件数が約7万件と発表されたが、伊佐市で文部科学省に報告された件数はいか程か。

答 対応は大丈夫と思う。伊佐市人権同和教育研修会の指定の座席の件は、一般席に参席しており情報の共有はできている。本市のいじめは、小学

校2件と中学校1件で、報告し、改善・解決を図った。

問 伊佐市教育の活性化に向け、市教育委員の何人かを公募制にしてどうか。

答 市長の専権事項で議会で承認しているので、公募制は考えていない。



合併の成果と反省点

鶴田公紀 議員

答

合併協定項目1278件は解決したが、未解決6件のうち4件が消防団関係である。24年度中に解決したい。合併特例債は一回目で合併したら有利であった。二回目の合併から特例債の目的が限定されたため、電算統合事業、大口庁舎浄化槽改修工事、耐震工事、菱刈庁舎空調工事等に活用した。人口減対策は非常に困難な問題であるが、企業誘致や定住促進事業等に努力する必要がある。

問

各種職員研修及び職員派遣、人員削減の推移や歳出抑制による行財政運営の成果と矛盾点についてはどうか。

答

各種職員研修や派遣は経費を必要とするが資質向上とレベルアップになる。研修派遣した職員は専門分野の課で頑張っている。職員減の分は嘱託職員、臨時職員、パート職員で対応しているので住民サービス等の低下はないと思っている。職員給は減るが共済費等の制度上の問題で削減効果が期待通りでない。

い。

まちづくり協定の意図は

問

ヴォルカ鹿児島（サッカーチーム）と伊佐市まちづくり協定について

答

スポーツを通じた協働によるまちづくりを推進するため、両者の持つ人材資源を活かし、スポーツを通じた連携で活力にあふれ、夢と生きがいのもてる豊かなまちづくりの実現を目指すことを目的に協定を締結した。



ヴォルカ鹿児島



問

新たな地域産業の創出を目的として創設された『チャレンジ基金』、22年度に1億5000万円を積立、農政分野6事業・定住促進1事業・商工業活性化に1事業の計8事業に基金を運用してきた。今年度で終わりになるが、各事業の総括をされたい。

答

麴用米生産拡大や優良種雌牛保留導入など所期の目的は達成できている。木造住宅整備促進は、25・26年度継続するため4000万円の基金創設をした。一応の成果が出ていると思うが、見直さなければならぬ点については来年度予算に向けて協議していく。

問

就農促進事業は、条件が厳しく、利用実績が1人ということであ

どうする

チャレンジ基金

久保教仁 議員

物産館の建設を

問

来年度以降、見直していくべきではないか。親子関係での就農は適用としないとすれば条件が厳しすぎたと考えられる。農業大学校等を卒業しての身内への就農も、経営者と雇用と位置づけても良いとも考える。今後、後継者が残り、農業従事者が増えるように就農促進を考えていきたい。

答

J Aの産直が規模を縮小して移転、公設市場も不振が続く苦慮している。市内の各直売所も年々売上げが低迷してきている。国庫補助金等を活用して物産館を造りJ A等に運営を委託する等の方策は考えられないか。



セリ市風景

浄化槽助成延長を

左近充

論 議員



問

合併浄化槽設置
に対する、市の補助
金の延長、増額は出来ない
か。

答

平成22年度より、
3年計画で24年度ま
での補助金だったが、基金
がまだ残っているので当面
25年度まで延長したい。増



日本城校区広場

額については、6万円から
10万円に上げたばかりなの
でなかなか難しい。

問

設置時の岩盤掘削
補助金増額はできないか。

答

岩盤掘削や湧水、
駐車場など特殊工事
については、まだ県内では
1市が補助しているだけで
ある。今のところ考えてい
ない。

日本城校区広場活用

問

日本城校区広場
は、激特事業川間川
の整備や県道南浦・築地線
改良で狭くなっているが、
人工増対策等、校区コミュ
ニティなどに無償譲渡でき
ないか。

答

校区コミュニ
ティより申し出が
あれば、内容によっては無
償の対応はできると思う。

問

道路改修工事の進
捗状況と上目丸橋の
架け替えを含めた総予算額
に対する財源を具体的に回
答されたい。

答

防災対策の浸水対
策道路として、総事
業費4億円のうち6割を国
の交付金を活用し、平成22
年度～平成26年度の完成予
定であったが、国道267
号交差点工事、上目丸橋架
け替え工事、国道447号
交差点工事などほかの機関
との調整が必要な部分も多
く、進捗は遅れている。
平成24年度で上目丸橋設
計を終わり、25年度末の進
捗率は着工部分35%とな
る。完成を平成28年度と予
定し、部分供用開始を進
め、早期全供用開始に努力
する。



大道下青木線の 改修計画

前田 和文 議員



大道下青木線に架かる上目丸橋

世帯から22年には277世
帯と増加したが、最近は申
請・総世帯数とも、ほぼ横
ばい状態である。世帯類型
別では、平成24年は276
世帯の内、「高齢・母子・
障がい・傷病世帯」はほぼ
横ばいであったが、就労意
欲があっても就業先がない
「その他世帯」が平成21年
は36世帯であったのが、64
世帯と増加しており、保護
世帯増加の大きな要因と
なっている。

また、高齢者世帯の割合
が最も高く5割を超えてい
る状況である。

生活保護事務活動には他
法律や、他施策の活用など
あらゆる機関との連携が必
要であり重要である。あら
ゆる生活相談等に迅速に対
応し安心して住める伊佐市
を構築していきたい。

生活保護受給者の
現状と課題は？

問

現在の生活保護受
給者の現状と傾向に
ついてどのように把握して
いるのか。

答

生活保護の世帯数
は平成20年238

市公営の 「無料塾」開設を 市来弘行 議員



問 現在、市内小中学校
校については、それ
ぞれの学校の特色を生かし
た教育が実施されている。
だが、その一方で、学力の
向上という点については、
努力はされているものの、
なかなか結果というものが

出てこないものどかしさも指
摘されている。学力向上に
向けた教育の活性化につい
て、以下提案としたい。

① 教育委員会が中心と
なって子どもたちの学力
アップのための制度を作る
べきだ。伊佐市全体が応援
していく公営の「塾」設立
を急ぐべきと考える。

② その中身として、まず
土曜日を活用した補習講座
の開設、次に市内中学校の
部活について、水曜日を休
みとし、その日の放課後
を、例えば水曜日講座とし
て、中学1・2年生を対象
として学習する日とできな
いものか。また、小学校
4・5・6年生を対象として
学習の補習を目的とする寺
子屋講座を平日の放課後実
施してはと考える。学ぼう
とする生徒たちを市民と行
政が一体となってサポート
していく仕組みづくりだ。
前に進むための一歩を踏み
出す時と考える。見解を問
う。

答

現在教育委員会
としても、いろいろ
な角度からの具体策を実施
してきている。提案いただ
いたものも含め、今後更に
研究を進め、しっかりとし
た方策を考えていきたい。



問 中学校再編の基本
的な進め方は。
答 教育委員会は生徒
にとって最も望ま
しい学習環境を整える観点
から学校の適正化を図るこ
とを基本に再編を進めてき
た。

今後は準備委員会、部会
の考え、意見を十分に尊重
し最終的には教育委員会で
決定していく。予算を伴う
ものについては相談してい
く。

問 準備委員会、部会
の開催は。
答 5月に教育委員会
ではPTA総会、
コミュニケーション理事會に今ま
での経緯、今後の進め方に
ついて、また新しい中学校
に向け基本的な共通認識を
してもらうための説明をし
た。今年度中に結論を出す
ことについては既に7部会



中学校再編

今までの経緯

森山善友 議員

が2回から5回の部会を開
催し、新しい制服の展示会
も始まっている。

消防団再編道遠し

問 再編議案がなぜ9
月議会でできなかった
のか。

答 合併協議会におい
て4年以内に再編す
ることになっており、合併
後いろいろと関係者で協議
してきたが総体的な合意を
見ないまま、今の時点で最
善の案として、一部合意を
みた2議案を3月議会で出
した。議会で継続審査とな
り、6月議会で否決、今の
時点では最良案と思ってい
たので今後について団や関
係者といういろいろ協議中であ
る。

問

地域審議会の参考
意見は。

答 地域審議会の意見
はそれぞれの方面団
の考えを理解されていると
思うので消防団幹部の方々
の意見と同じと考える。



消防出初め式

伊佐農業を守る 鳥獣対策

古城 恵人 議員



問

美味しい伊佐米は、水清き山間部でできる。伊佐の基幹産業は農林業、有害鳥獣駆除の取り組みは伊佐の基幹産業を守り育てること。市長は高齢農家が被害に悩み米づくりに努力されている実情を理解しているか。被害農家

には補助事業のあるネットや電機柵設置で対策をすればと安易に考えてはいないか、市が対応すべき問題ではないのか。

① 伊佐市内猟友会の猟場は7つに分けられているが、これを廃止し、駆除期間に捕獲隊が自由に出入りして駆除効果を上げるよう猟友会幹部と何故話し合わないのか。

② 隣接市町の首長と連携し一斉駆除を行うなど、広域でより効果の上がるような対策を求めてきた。担当者まかせでなく市長自ら足を運び、汗をかくリーダーシップをなぜ取れないのか。

③ 鹿、イノシシなどの駆除費（伊佐市65000円、人吉市・えびの市など1万円）を隣接市町に合わせて駆除報奨金は本人に渡りよう各猟友会長と話し合い捕獲隊員や会員が意欲を持てる駆除の仕組みにできないか。

答

① 猟友会長同士で話ができたところもある。例えば針持と本城。② 担当者が県や各市町と協

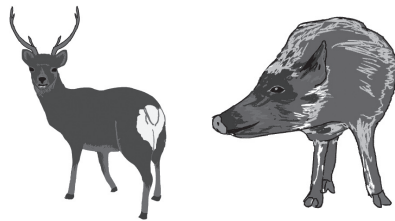
議している。③ 予算はこれまでより倍増して対応している。

問

答弁はこれまでと殆ど同じ内容で、前進していない。そのように確認してよいか。

答

・・・。（答弁なし）



問

伊佐市長として四年が経過する。公約の①子育てや障がい児(者)の支援、②医療体制の充実、③農業振興、④大型量販店が進出する中で地元商店街の活性化、⑤地場産業や企業誘致等の産業振興の成果は出たのか。

答

①小児科・産婦人科、保育所、トータルサポートセンター等、どの自治体より充実している。②脳外科医不在は医師が研修中であり、十年はかかり、今は難しい。③ブランド認証制度の構築。新規就農制度を予算化したのが、ハードルが高く一人だった。④大型量販店の進出は止められない。婚活の「いさえん」で飲食店の活性化につなげる。⑤地元施工業者による木材利用、合併浄化槽、太陽光設置の補助を

市長の公約の 成果は出たか

福本 千枝子 議員

した。企業誘致は難しいが、大國フーズと締結した。地元企業には雇用のお願いに毎月訪問している。

問

①人口減少の要因と今後の対応をどうするか。②企業誘致が見込めない状況であるが、本市の基幹産業である農業を再構築すべきではないか。③高齢化が進んでいくが、交通手段や今後の介護計画をどうするのか。

答

雇用の場がなく、春には高校生が出て行く。今後、交流人口を増やし定住促進をPRしていく。②カボチャ、金山ネギの専業農家、畜産(牛)の複合農家を構築する。③パスの運行については実証段階であり、要望があれば変更する。介護施設等については三年毎に見直しをしていくが、今後、タイプの違



少子化対策

議員 一 信 訪 誨



問 合併して4年目、人口3万1000人が2万9297人になり、減少傾向にある。5月には地域の若者たちの力で、地域活性化や出会いの場を目的として「いさえん」が開催された。計239人の参加があり、カップル（5月



10組、7月11組、8月7組）が誕生した。人口を増やす対策として、市内に3年以上居住することを条件に、結婚祝金を支給できないのか。また、「いさえん」に対して今後の支援は。

答 結婚祝い金を出すというより、これまで取り組んできた出産祝金や子育ての施策の方へと考えている。「いさえん」については、商店街活性化や出会いの場に一定の成果が出ており支援をつづけていきたい。

自殺予防対策

問

年間3万人を超える自殺者を減らす取り組みが広がっている。現在、うつ病を患っている方々も多く、私たち市民の理解が大切である。前回の講演会では参加者が少なく、啓発活動が足りないように思われるが、今後の取り組みは。

答

健康増進計画として、「健康いさ21」を作成し7月に配布した。心のケア対策、自殺予防、うつ病に対して市報でも3月号・9月号に掲載し、悩み、心のケア電話相談の番号をお知らせしている。相談を受けたら担当課と連携して進めていきたい。今年度も2月に市民に向けての講演会を予定している。



問

伊佐の活性化は、まず伊佐をきれいにする、「ゴミ拾い」「花植え」などおこなうべきではないか。また、伊佐を便利にする、10月1日からの交通対策に期待するが、周辺市町村へのアクセス、市内の各施設等への循環・時刻表の標記の方法など、今後の課題として検討できないか。

答

ゴミ拾いに関しては、既に多くの方が活動して下さっている。交通対策はいろいろな観点から検討し、創意工夫していく必要があると思う。

問

伊佐を楽しくするため、各コミュニティでいろいろな工夫されている。「ふるさと大口」という歌を「ふるさと伊佐」に曲名を変えてPRしてはどうか。また、伊佐（山間地）

散歩のついでに「ゴミ拾い」

松元 正 議員

と沖縄（広大な海と夕日）の交流を深め、伊佐米を「(仮称)伊佐ゴールド米」として売ってはどうか。

答

作詞者・作曲者に見解を伺う必要がある。著作権の問題もあり、著作権の問題もある。伊佐米はブランド化を進め、販売促進のため沖縄とも交渉中である。

耕作放棄地の活用

問

田畑を持ちながら耕作をしない農家が増え、耕作放棄地がますます

答

深刻ないろいろな問題を抱えているので、各方面の方々と様々な観点からの検討が必要である。



超低空飛行機 実態調査を

畑中香子 議員



問 爆音とともに山すれすれを超低空で飛行する機体がたびたび市民の間で目撃されている。どのような飛行機が何の目的で飛行するのか調査し、市民に公表するべきではないか。

答 調査したが、米軍機であるということしか分かっていない。住民からの目撃情報は市には届いていない。

問 目撃をした場合、どこに連絡するのか。どのように対応するのか。超低空飛行を目撃した人は一様に、落ちてくるのではないかと恐怖心を抱いたと言っている。違法である可能性も高く、市民の安全を守る立場から、事実を確認し、必要であれば抗議や要請を行うべきではないか。

答 国の防衛上の問題であるので何も言う立場にない。

教室にストーブを

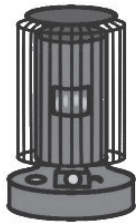
問 冬の場の教室にストーブを設置して学習環境を整えるべきではないか。学校保健法の規定にもあり、寒すぎる教室で学習するよりも能率が上がるのではないか。

答 山間部の小学校は設置しているが、市としてすべての普通教室に

設置する考えはない。子どもたちには寒さに負けない強い身体をつくってほしい。

問 寒さに耐えながら学習することで強い身体になるのか。なぜ設置してある学校とそうでない学校が存在するのか。

答 学校長が判断するので、設置していない学校から、ストーブを設置して欲しいとの要望は聞いていない。



問 湯之尾カヌー競技場の周りに、人を呼ぶために、どんなことができるか。

答 まずは、国体に向けて、横断幕等を作り誘致できるようにしたい。

また、カヌーに親しむように、小学校での指導や、カヌー教室を開いていく。カヌーのメッカにするために、民間が行うものについては、やる気が見えなければ行政は動けない。行政がやるものについては、更衣室、トイレ、安全対策等であり、話し合いながらやっていく。

街づくり政策

中村周二 議員

特待生制度を
伊佐市で作れないか

問 子どもたちが将来オリンピック等活躍できるような制度を作ると、カヌーの町伊佐になると思うが。

答 私立高校では出来るが、公立では、県教委との関係がどうなるか、わからないので勉強してみる。伊佐農林高校のカヌー部を、活性化することで進んでいくと思う。

問 戦する価値がある。民間で寮をつくりやってくるときには、市からの補助は考えられないか。

答 民間で寮をつくるときは、協議して内容を聞いてから検討をする。



カヌー競技場周辺の街並み



湯之尾カヌー競技場

請願・意見書

請願の結果

件名	提出者	紹介議員	結果	付託先
「こころの健康を守り推進する基本法」(仮称)の早期制定を求める意見書採択に関する請願	霧島市 中村 紘一	岩元 克瀬	採 択	環境福祉委員会

意見書の提出

「心の健康を守り推進する基本法」(仮称)の制定を求める意見書

今、国民の「こころ」は深刻な状況にある。平成10年から毎年3万人以上の人々が自殺によって命をなくしている。平成17年には、300万人以上、つまり40人に1人以上の人々が精神科を受診するようになり、今も増加傾向が続いている。平成18年4月に3障害を一体的に支援する障害者支援法が施行されたが、サービスの基盤体制は立ち遅れており、地域で暮らす当事者を支える家族に対しても、支援が必要であることが最近になってようやく認識されるようになった。

また、障害者自立支援法が見直され、今年6月に成立した障害者総合支援法も障がい者制度改革推進会議総合福祉部の骨格提言が、一部の採用となり当事者や家族にとっては不満の残るものとなった。

厚生労働省は、平成20年度から21年度にかけて「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」を設け、現状と今後望まれる施策をまとめた。これに基づき平成22年4月、家族当事者、医療福祉の専門家、学識経験者による「こころの健康政策構想会議」が設置された。

「こころの健康政策構想会議」は、議論を重ね、家族・当事者のニーズに応えることを主軸に捉え、現実の危機を早く根本的に改革するための「こころの健康政策についての提言書」を、平成22年5月末に厚生労働大臣に提出した。

この中で、精神医療改革、精神保健改革、家族支援を軸として、国民すべてを対象とした、心の健康についての総合的・長期的な政策を保障する「こころの健康を守り推進する基本法」(仮称)の制定を強く求めている。

本市においても、取り巻く社会的影響が遠因と考えられる精神疾患の患者数は、増加傾向にあり、悲惨な結末を引き起こした事案も少なくない。

よって、伊佐市議会は、国会及び政府に対し、「こころの健康を守り推進する基本法」(仮称)の制定を強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条に基づき、意見書を提出する。

平成24年9月24日

提出先：衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、文部科学大臣

地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書

地球温暖化防止のための温室効果ガスの削減は、我が国のみならず地球規模の重要かつ喫緊の課題となっており、森林のもつ地球環境保護、国土の保全、水質源の涵養、自然環境の保持など「森林の公益的機能」に対する国民の関心と期待は大きくなっている。

また、わが国は京都議定書において、第1約束期間である平成20年から平成24年までの間に、温室効果ガスを6%削減することが国際的に義務付けられているが、そのうち3.8%を森林吸収量により確保するとしている。

このような中、「地球温暖化対策のための税」が平成24年10月に導入される一方、「森林吸収源対策など地球温暖化対策に関する地方の財源確保」については、「平成24年度税制改正大綱」において、「平成25年度実施に向けた成案を得るべく更に検討を進める」とされている。

もとより、地球温暖化防止をより確実なものとするためには、森林の整備・保全等の森林吸収源対策や豊富な自然環境が生み出す再生可能エネルギーの活用などの取り組みを、山村地域の市町村が主体的・総合的に実施することが不可欠である。

しかしながら、これらの市町村では、木材価格の暴落・低迷や林業従事者の高齢化、後継者不足など厳しい情勢にあり、森林吸収財源対策などの地球温暖化対策に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

よって下記事項の実現を強く求めるものである。

記

二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する市町村の役割を踏まえ、「地球温暖化対策のための税」の一定割合を、森林面積に応じて譲与する「地方財源を確保・充実する仕組み」を早急に構築すること。

以上、地方自治法99条の規定により意見書を提出する。

平成24年9月24日

提出先：衆議院議長，参議院議長，内閣総理大臣，財務大臣，総務大臣，国家戦略担当大臣
農林水産大臣，環境大臣，経済産業大臣

総括質疑

発信者	質疑事項	質疑の要旨
岩元克頼 議員	議案第50号 伊佐市暴力団排除 条例の制定について	(1) 伊佐市内における暴力団、暴力団員の実情 (2) 第5条各項に定めることについて、実行のための具体的方法 (3) 第8条の支援は非常に大切だが、これを徹底する方法 (4) 第9条の必要な広報及び啓発の具体的活動 (5) 本条例実施にあたっての教育委員会の取り組み (6) 第14条（委任）の具体策

追跡!!

あの質問どうなった?!

平成23年12月議会

質問

樹齢1000年を超え伊佐市の文化財にも指定されたことのある三州谷の大ケヤキの倒伏後の保存構想は?

答弁

倒伏で文化財の指定解除となった。根の部分や胴回りの部分の搬出は無理と判断し、枝を2年後くらいには展示できるようにしたい。

また後継としてクローン苗木を里帰りさせる手立てを考えている。



大ケヤキ 高さ 41 m
幹周囲 8 m

こうなった



平成23年8月に倒木した大ケヤキ



クローン苗木

現在、保管し来年春頃には展示ができるように準備中。

展示場所は、大口東小学校、まごし館、菱刈庁舎、ふれあいセンターを予定している。

直径 - 60 ~ 80 cm

高さ - 50 ~ 60 cm

地元である多々良石自治会にも贈呈する。

クローン苗木は、専門家の下で2、3年育てたあと植樹予定(場所未定)

※大ケヤキがあった場所には現在、営林署がすでにクローンの苗木を植樹

ひとくち

コラム

伊佐で働くエキスパート

伊佐の宝

鹿児島県立伊佐農林高等学校

校長 田上 博

伊佐農林高等学校に赴任して2年目になります。昨年、伊佐市に来てすぐの4月、地域公民館の花見が大口東小学校であり、グラウンドゴルフや懇親会にもお誘いいただき、人の温かさにつれ、すんなり溶け込むことができました。

また、いろいろな所で、本校出身の方々に声をかけていただき、感謝の気持ちと同時に責任の重さを感じています。

さて、本校は広大な敷地に樹木が立ち並ぶ、自然豊かな農林高校です。大正3年に創立され、平成26年には創立100周年を迎えます。

現在、本校は「地域に開かれた学校づくり」をモットーに、地域と連携した取り組みを積極的に行なっています。4月12日から2日間、「春の農林館祭り」を開催し、また10月19日には「パンジー祭り」を開催し



パンジー祭りの様子

ました。実習で育てた丈夫な苗や人気商品である「更正の素」、菓子メーカーと共同開発した「キミって白いね」シリーズのロールケーキやカステラなど、早い段階で売り切れるものもあり大盛況でした。

また、昨年、伊佐市の活性化を図るため結成した「地域応援団」は「伊佐農祭り」のプロデュースや多くのイベントへの参加など、テレビ、新聞等で大きく取り上げられ、生徒たち

の意欲、自信につながっています。

伊佐の子どもたちは素朴で従順なところを持っています。また、故郷を誇りに思い、大切にしたいと思っています。今回の「地域応援団」の立ち上げにしても、

伊佐市の高齢化・少子化が進んでいく中で、自分たちに何かできることはないのか、まずはみんなで行動してみようというところからスタートしています。子どもたちが元気で明るく活躍

する姿を見て、地域の方から「頑張りなさいよ」とよく声をかけていただいています。

この子どもたちの故郷伊佐に対する熱い想いを消さないように温かく見守っていただき、エールを送って欲しいと思います。人を育てることがすなわち伊佐の財産となります。

この子どもたちは将来の「伊佐の宝」になると思います。

今後も、生徒たちが多くの企画を立て、伊佐市の良いところを県内、さらには全国へ情報発信することで、地域の活性化に少しでも貢献できればと期待しています。



地域応援団(伊佐市夏祭りにて)

ありがとうございました



今回の任期満了に伴いまして、市議会議員職を勇退されることになりました。



山下 親志 議員

H 3.4.30
旧菱刈町議会議員 当選
H15.5.1
旧菱刈町議会
第15代議長 就任
H22.12.7
第2代伊佐市議会議長 就任
H24.11.29
伊佐市議会議員 任期満了



鶴木 誠 議員

H11.4.30
旧菱刈町議会議員 当選
H20.12.10
初代伊佐市議会副議長 就任
H24.11.29
伊佐市議会議員 任期満了



森山 善友 議員

H11.4.28
旧大口市議会議員 当選
H19.5.7
旧大口市議会
第29代議長 就任
H24.11.29
伊佐市議会議員 任期満了



おくやみ

平成15年に旧大口市議会議員として初当選され、合併後も伊佐市議会議員としてご活躍されていた井上光一議員が平成24年8月3日にお亡くなりになりました。
あらためて皆様にお知らせするとともに、井上光一議員のご冥福を心からお祈り申し上げます。

《 伊佐市議会議員 辞職のお知らせ 》

旧大口市時代からご活躍されました 今吉光一議員と古城恵人議員が、今期中に辞職されました。



古城 恵人 議員
H 3.4.28
旧大口市議会議員 当選

H24.9.30
伊佐市議会議員 辞職



今吉 光一 議員
H15.4.28
旧大口市議会議員 当選

H24.3.23
伊佐市議会議員 辞職

議会を

傍聴して



茅原真理子

何だか敷居が高く、一人ではとても行けないと思っていた議会傍聴に仲間と一緒に足を踏み入れました。

菱刈時代の議場と違って狭く暗いなあと感じました。しかしいくら建物が立派でも、内容が問題で、論議が噛み合わなければ市政は伸びないと思います。

行政と議会が両論の如くと言われているとおり、伊佐市発展の為、政策論議を深めて行つて貰いたいのです。

18日には市長選挙、市議会議員選挙が行われます。自分が信じて託した人が、議場でどのような活躍をされるのか自分で見て聞いて確かめる責任が私達市民にもあるのではないのでしょうか。

さあ！選挙後の12月議会、どのような議論がなされるか出掛けてみましょう。

12月定例会のお知らせ

- 12月3日(月) 本会議(招集日)
- 12月4日(火) 本会議(2日目)
※通常の1日目
- 12月14日(金) 本会議(3日目)
総括質疑
- 12月17日(月) 文教厚生委員会
- 12月18日(火) 総務産業委員会
- 12月26日(水) 本会議(4日目)
採決

平成25年

- 1月9日(水) 本会議(5日目)
一般質問
- 1月10日(木) 本会議(6日目)
一般質問
- 1月11日(金) 本会議(最終日)
一般質問

※選挙結果によっては、日程が変更になる場合があります。

議会中継を自宅等のインターネットでも視聴できます。(市議会の生中継や録画を映像配信しています)

【伊佐市ホームページ】→【伊佐市議会】→
→【インターネット映像中継】

大口庁舎・菱刈庁舎・まごし館・
ふれあいセンターでも
議会ライブ中継をご覧になれます。



編集・発行責任者

議長
山下親志

議会広報等
特別委員会

副委員長
畑中香子

委員

鶴木来弘
丸田和弘
緒方重則

※
委員長 辞職

編集後記



秋の深まりとともに、凜とした伊佐らしさが漂う今日この頃です。

9月で議員を辞職、編集委員の皆さんに最後まで負担をかけることになり恐縮しています。

省みますと、新生「伊佐市議会」の前任の編集委員の皆さんが、旧菱刈町議会だより編集の優れた伝統「読みたくなる紙面づくりや構成」など基礎づくりをしていただいたお陰で、更に頑張ろうと意気があがりました。

とりわけ私たちが力を入れたのは、一般質問の見出しの12文字の研究でした。新聞の見出しを参考にそれぞれ推敲を重ねながら皆さんに関心を持っていただけるよう工夫し、意見を出し合いました。

こうしたことが、お互いにとても勉強になりました。

また、他の市・町の広報誌を参考に「重要案件」は、皆様により分かっていただけるよう賛成・反対の一覧表にし取り入れました。

終わりに、プロ並みのカメラマンで一番リーダーシップを発揮してくださいました鶴木委員が病で入院されたことは残念。一日も早い回復を皆で祈りたいと思います。

最後に関係各位の皆様にご心からお礼を申し上げます。有り難うございました。

議会広報等特別委員会

元委員長 古城 恵人